

令和7年度 堺市感染症発生動向調査委員会 会議録

開催日時：令和7年12月18日（木）14：00～16：00

場所：堺市衛生研究所別館（堺市保健医療センター内）1階会議室

（堺市堺区甲斐町東3丁2番6号）

出席委員：大里浩樹委員、露口一成委員、杉本親寿委員、松島礼子委員、岡本奈美委員、

藤本美穂委員、谷和光委員、速水真紀委員、山中八重委員（9名）

欠席委員：沖永剛志委員、池上雅久委員、西本夕紀委員（3名）

傍聴者：0名

事務局：健康部衛生研究所

野田所長、田畠所長代理、三好総括研究員、中村総括研究員、岩崎主任研究員

オブザーバー：保健所感染症対策課

康医長

議案：

1. 会長・副会長の選出

委員の互選により、会長には大里委員、副会長は露口委員が選出された。

2. 議題

（1）令和6年感染症発生動向調査事業報告ほか

・感染症発生動向調査事業の報告（患者情報）

・マイコプラズマ肺炎について

（2）細菌検査情報

・腸管出血性大腸菌（EHEC）について

・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）について

（3）ウイルス検査情報

・ウイルス検査について

・インフルエンザウイルス検出状況について

（4）トピックス 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスについて

（5）トピックス 堺市で検出されたロタウイルスAの遺伝子解析について

3. 主な質疑応答、意見等

(1) 令和6年感染症発生動向調査事業報告ほか

特に質問はありません。

(2) 細菌検査情報

(委員)

職場定期検便での検出が増えているが、検出のあった職場では何か対処をされていますか。

(事務局)

2023年ごろから増えており、今回の検出事例では飲食店、学校が多く、これらの場合は就業制限等の対応を行っていると推測されます。また、就業に関わるため、抗生物質の処方も受けていると推測されます。

(委員)

職場定期検便において検出される菌も、MLVA typeなどの型によって、病原性に違いはあるのでしょうか。

(事務局)

職場定期点検では OUT (O 不明) が多く、これらは無症状である場合が多いため、それほど強力な菌ではないと考えます。

(委員)

OUT が増加しているのはなぜですか。

(事務局)

腸管出血性大腸菌の届出基準は、大腸菌であること、ベロ毒素を産生することであり、型別検査自体は届出に際しては不要であることが一因ではないかと考えます。また、職場定期検便での検査方法が変わってきたことも原因の一つを考えます。

(3) ウィルス検査情報

(委員)

令和元年度のコロナ禍以前での感染症の流行状況と、現在の状況はどのような変化がありますか。

(事務局)

現在は、コロナ禍以前の状況に戻ってきて感じるが、コロナ禍以前と異なる点もいくつかあります。感染症によっては、増加がみられる季節や、頻度が異なっているものもあります。コロナ禍によ

って、流行パターンがリセットされている可能性もあると考えます。

(委員)

新型コロナウイルスの調査はどのようになっていますか。

(事務局)

本年4月より、新型コロナウイルスも含めて、急性呼吸器感染症（ARI）としてサーベイランスを行っています。

（4）トピックス 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスについて

(委員)

個別で報告していたものを、トータルで報告することになったと理解しています。検査実施しているウイルスがすべて陰性の場合、未知のウイルスなのかも含め、追加の検査等を行うのでしょうか。

(事務局)

ARI サーベイランスの将来的な目標には未知の病原体察知も含まれますが、本市ではすべて陰性の場合の追加検査を行っておりません。検査項目は、国としては12項目を示しており、本市も12項目実施していますが、20項目以上実施している自治体もあります。

本サーベイランスは本年4月より開始されたが、現在の堺市における病原体検出率はおよそ6割です。これらの結果を受けて、検査項目等について再評価される可能性もあると考えます。

（5）トピックス 堺市で検出されたロタウイルスAの遺伝子解析について

(委員)

ロタウイルス遺伝子型の違いによって、症状は変化しますか。

(事務局)

今回報告した株はほとんどが入院例であり、重症化した患者より採取しているため、変化については不明です。

(委員)

他自治体においても同様の調査は実施されていますか。また、ワクチン見直しの議論が必要となるのでしょうか。

(事務局)

全国調査ではG Typingのみです。ワクチン見直しについては、交差免疫によって異なる型でも一定の免疫効果は得られると考えられているため、現状では可能性は低いと考えます。